



# 平成31年 1~3月 事業案内

※申し込みが必要(各事業開催日の1ヶ月前から、電話または直接)



## 和紙の凧をあげよう

**日時** 1月14日(月・祝)  
午前10時~正午

**内容** 和紙を使った凧を作って  
広場であげる

**定員** 30人

**料金** 700円(材料費)

**申込** 要/12月14日(金)~  
定員次第終了



## 草木染め

**日時** 1月27日(日)  
午前10時~正午

**内容** 自然の植物で  
ストールを染色

**定員** 20人

**料金** 2,500円(材料費)

**申込** 要/12月27日(木)~  
定員次第終了



## グルメ体験

**日時** 2月9日(土)  
午前10時~正午

**内容** 古代の食事を再現して  
試食

**定員** 30人

**料金** 無料

**申込** 要/1月9日(水)~  
定員次第終了



## 人形劇

**日時** 2月17日(日)  
午後1時30分~3時

**内容** 劇団赤いトマトによる  
人形劇の公演

**定員** 100人

**料金** 無料

**申込** 要/1月17日(木)~  
定員次第終了



## 石碑の拓本実習

**日時** 3月9日(土)  
午前10時~正午

**内容** 大型の石碑の  
拓本方法を実習

**定員** 15人

**料金** 無料

**申込** 要/2月9日(土)~  
定員次第終了



## 石碑の拓本実習 作品展

**期間** 3月17日(日)~  
31日(日)

**内容** 石碑の拓本実習の  
作品を展示

**場所** エントランスホール



## 歴史ウォーク

**日時** 3月17日(日)  
午前9時~正午

**内容** 田村町小川の  
歴史スポットを徒歩で見学

**定員** 30人

**料金** 無料

**申込** 要/2月17日(日)~  
定員次第終了



## 昔ばなし

**日時** 3月24日(日)  
午後1時30分~3時

**内容** 語り部によるこころ暖まる  
昔ばなしの公演

**定員** 60人

**料金** 無料

**申込** 要/2月24日(日)~  
定員次第終了

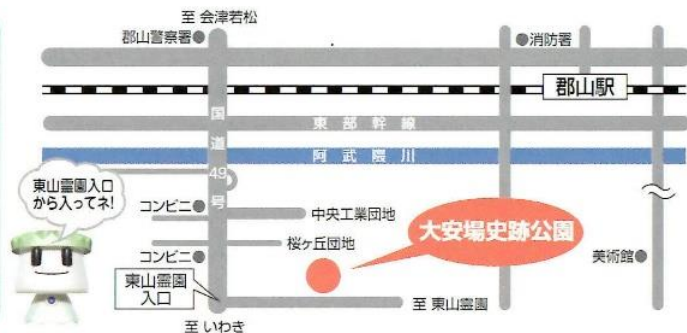
## 大安場史跡公園

(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

住所:福島県郡山市田村町大善寺宇大安場160番地  
電話:024-965-1088 FAX:024-965-1090  
Mail:oyasuba@bunka-manabi.or.jp  
休館日:月曜日(月曜日が祝日の時は次の休みでない日)  
※公園は年中無休です。

ウェブサイトも  
チェック!

大安場史跡公園 検索



vol. 39

おおやすばしせきこうえん  
大安場史跡公園

# まるさんかくしかく

タイトルはまるい石鯛、さんかくは古墳の前方部しかくは後方を表現しています。

## HAPPY NEW YEAR



# 十二支の考古学

## 亥



あけましておめでとうございます。

新しい年の始まりです。1月5日(土)から2月3日(日)まで、今年<sup>えと</sup>の干支である亥<sup>いのしし</sup>に因<sup>ちな</sup>んだパネル展示を行なっています。干支では「亥」の漢字を使いますが、普通は「猪」を用います。「亥」と「猪」を使い分けると煩雑になるので、以下ではカタカナで「イノシシ」と表記します。

そもそも「亥」とは、十二支発祥の地の中国では、ブタのことを意味していました。また、よく知られているように、イノシシを家畜化したのがブタです。そこで今回は、イノシシとブタをあわせて紹介します。

各地<sup>じょうもんじだい</sup>の縄文時代以降<sup>いせき</sup>の遺跡から、イノシシの骨がたくさん見つかっています。縄文時代の遺跡から出土する動物の骨はイノシシとシカが多く、2つは同じくらいの割合です。ところが<sup>わりあい</sup>弥生時代になると、イノシシが圧倒的に多くなります。どうしてでしょうか。

イノシシの骨が出土した遺跡の中には、もともとは野生のイノシシが生息していなかった北海道や離島の縄文時代の遺跡があります。そこから出土したイノシシは、人間によって運ばれたと考えざるを得ません。生きたイノシシを船で運ぶのは簡単ではなかったはずですが、もちろん大人のイノシシは無理なので、扱いが容易な子どものうちに運んだことでしょう。すでに縄文時代には、イノシシを飼育することが始まっていたのです。ただし、見つかった骨には、ブタの骨でみられるような、家畜化の特徴は認められません。

様子が大きく変化するのは、弥生時代になってからです。家畜化の特徴が、出土した骨に現れるようになるのです。その特徴は、中国大陸南部のブタと類似します。弥生時代には、稲作の技術とともに、家畜としてのブタが伝わったのです。弥生時代にイノシシの骨が多くなるのは、区別の難しいブタの骨が含まれているからだということになりそうです。



# 食用としてのイノシシ

イノシシの古名は「イ」です。同じく「シシ」は肉を意味する言葉なので、「イノシシ」とは、「イ」の「シシ」、すなわち猪の肉という意味になります。このような語義からもわかるように、人間がイノシシに求めたのは、食用としての肉が第一だったと思われます。

狩猟・採集の社会であった縄文時代には、多くの動物が食用となりました。縄文時代には、動物の狩猟のために弓矢の使用が始まりました。縄文人たちは、弓矢を用いてイノシシ狩を行っていたのです。湖南町の山ノ神遺跡からは、下の写真に示した縄文時代晩期の弓がみつかります。この弓から、イノシシを狙った矢が放たれたかもしれません。

また、動物を捕獲するために、落とし穴も掘られました。落とし穴には大小の大きさがあり、そのうちの大きなものが、イノシシを狙った可能性があります。郡山市内の多くの遺跡から、縄文時代の落とし穴がみつかります。

縄文人たちは、イノシシをかたどった土製品を作っていました。数は多くないものの、各地の遺跡から出土しています。右の写真に示したのは、青森県弘前市の十腰内2遺跡から出土した縄文時代後期のイノシシ形の土製品です。鼻や眼、2つに割れた蹄など、イノシシの特徴が細かく表現されています。このような土製品は、縄文時代中期以降に多くなります。自然の恵みに感謝する気持ちを込め、何らかの儀礼に用いたのではないのでしょうか。自然と共生していた縄文時代ならではの品です。



▲山ノ神遺跡出土の弓  
(大安場史跡公園蔵)

▲十腰内2遺跡出土のイノシシ形土製品  
(写真提供:弘前市立博物館)

# 埴輪になったイノシシ

古墳時代中期になると、イノシシの形をした埴輪が作られるようになります。イノシシの埴輪は、他の形の埴輪と同じように、古墳に立て並べられました。イノシシ形の埴輪は、狩りをする人物の埴輪などと一緒に出土する例が多く、狩猟の情景を再現して古墳に並べられていたと考えられます。

右下の写真は、群馬県高崎市の保渡田Ⅶ遺跡から出土したイノシシ形の埴輪です。この埴輪で注目すべき点は、イノシシの左側の腰部に、矢の刺さった様子が表現されていることです。矢の刺さった場所をよく見ると、赤色の顔料が縦方向に着けられているのがわかります。矢傷から血が流れている様子を現わしているのでしょう。

郡山市の北隣りにある本宮市の天王壇古墳からも、イノシシ形の埴輪がみつかります。下の写真は、同古墳から出土した古墳時代中期のイノシシ形の埴輪です。破片のため全体像は不明ながら、鼻や眼などが写実的に表現されています。近くからはイヌの形をした埴輪がみつかり、狩猟の情景を再現していたと予想できます。

狩猟という行為には、狩猟の行なわれた土地を、その自然をも含めて支配していることを示す意味がある、との見解があります。この説に従うならば、狩猟を行なった人物は地域の支配者で、狩猟の対象となった動物は支配される土地を象徴する存在、ということになります。そういえば、宮崎駿監督の映画「もののけ姫」に登場した乙事主も、イノシシの姿で自然を象徴して描かれていました。



▲保渡田Ⅶ遺跡出土のイノシシ形埴輪  
(写真提供:かみつけの里博物館)

▲天王壇古墳出土のイノシシ形埴輪  
(写真提供:本宮市立歴史民俗資料館)

# 再び食用として

縄文時代には盛んに食べられていたイノシシですが、その後、人々がイノシシの肉を口にする機会は少なくなりました。ところが江戸時代になると、イノシシの肉を食べる機会が、再び多くなったようです。イノシシの骨が出土する遺跡が、江戸時代に多くなるからです。

大都市に成長した江戸では、「山鯨」や「牡丹」の名称でイノシシの肉が販売されていました。歌川広重の代表的な浮世絵の1つである「名所江戸百景」

には、「山くじら」の看板を掲げた店の画かれたカットがあります。イノシシの肉を販売する店が、普通に存在していたことがわかります。イノシシの肉が山鯨と呼ばれたのは、食感がクジラの肉に似ていたからです。

東京都新宿区の三栄町遺跡からは、100個体を超える動物の骨が、集積した状態で見つかりました。出土した骨には、イノシシの他にもシカやカモシカなどが含まれていました。この場所が、獣肉を扱う

店であったことがわかります。広重の浮世絵に画かれた「山くじら」の看板が、この店にもでていたかもしれません。

江戸の遺跡からは、数は多くないながら、ブタの骨も出土しています。薩摩藩の江戸屋敷があった薩摩鹿兒島藩島津家屋敷跡第2遺跡からは、大型のブタの骨がたくさん出土しました。鹿兒島といえば黒豚の産地です。これらのブタは、薩摩の黒豚であったかもしれません。薩摩藩江戸屋敷の人たちは、どのような料理でこのブタを食べたのでしょうか。興味は尽きません。



▲三栄町遺跡でみつかった  
獣骨の集積状況  
(写真提供:新宿区教育委員会)



薩摩鹿兒島藩島津家屋敷跡  
第2遺跡出土のブタ骨  
(写真提供:港区立港郷土資料館)